

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

広島県 北広島町

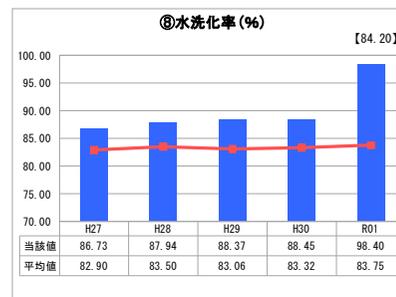
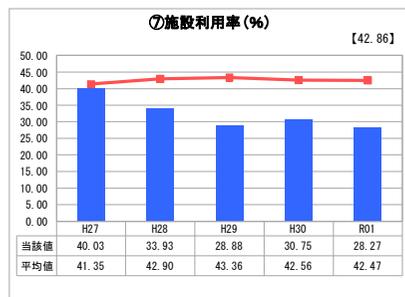
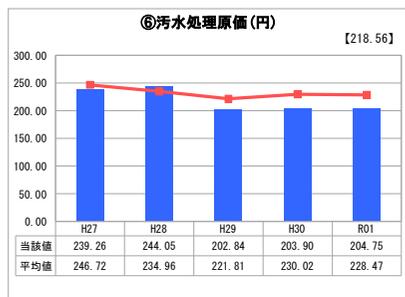
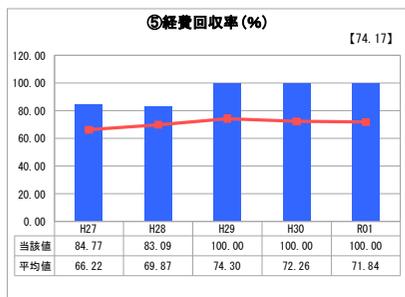
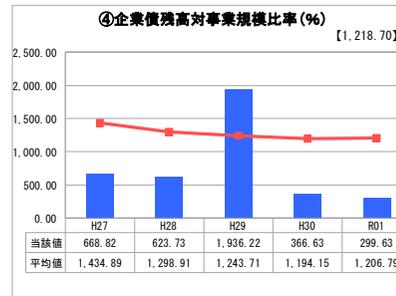
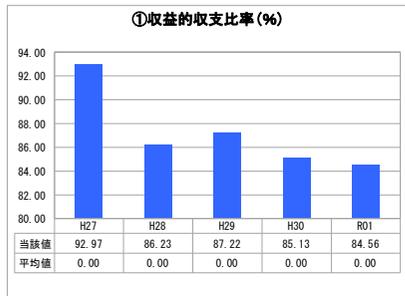
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>※</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	24.22	72.42	3,623

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,526	646.20	28.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,442	2.99	1,485.62

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は100%を下回っており、単年度収支は赤字である。昨年度に比べ総収益は減少し、総費用が増加したことから比率は悪化している。今後は単年度収支赤字縮減に向けて経営改善に取り組んでいく必要がある。

②企業債残高対事業規模比率のH29当該値は1,936.22%となっているが、正しくは386.09%である。企業債残高対事業規模比率は企業債現在高とともに順調に減少している。類似団体平均を大きく下回る比率となっているが、これは一般会計の負担による影響もあることから一概に良いとは言えない状況である。

③経費回収率は、前年に引き続き100%を維持している。引き続き、汚水処理に係る費用の削減など単独経営に近づくよう取り組みを進めていく必要がある。

④汚水処理原価は前年度と同様の数値となっている。類似団体平均と比較してもほぼ同程度の数値となっているが、施設の老朽化や人口減少による有収水量の減少を踏まえ、更に効率的な汚水処理を実施していくための対策を検討していく必要がある。

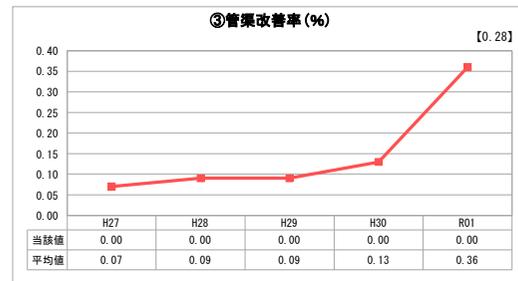
⑤施設利用率は、類似団体平均を下回っており、施設の効率性の面では、適正な施設規模とは言えない数値で推移しており、施設の効率化等検討していく必要がある。

⑥水洗化率は100%に近い数値で推移している。引き続き水洗化率100%に向け取り組んでいく。

### 2. 老朽化の状況について

③現況では、法定耐用年数を超える管路は出していないが、施設の老朽化が進み不明水等の増加につながることから、予防保全に努め計画的な更新を図り、事業費の平準化に向けた対策も必要となってくる。適正な時期に適正な管路更新を実施していく計画的な資産管理を行う必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

本町の特定環境保全公共下水道事業は、前年度と比較するとやや悪化傾向であり、総収益における繰入金割合が高いことなどの問題点がある。また、単年度赤字収支という課題もあるが、令和6年度からの法適化を見据え、今後も健全な経営を図っていくため、経営改善に向けより計画的に運営を行っていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。